

事例番号:360080

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第二部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 37 週 3 日 胎児心拍数陣痛図で基線細変動中等度、一過性頻脈あり、一過性徐脈なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 5 日

15:35 胎動減少のため受診

15:36- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線頻脈、基線細変動減少、一過性頻脈消失を認める

16:10 胎児機能不全のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 5 日

16:25 頃- 胎児心拍数陣痛図で遷延一過性徐脈出現

16:35 ドップラ法で胎児心拍数 70 拍/分

16:44 胎児心拍異常のため帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯の太さ 0.8cm×0.8cm

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 5 日

(2) 出生時体重:2400g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.92、BE -25.8mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 0 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液投与

(6) 診断等：

出生当日 重症新生児仮死、新生児虚血性低酸素脳症

(7) 頭部画像所見：

生後 5 日 頭部 MRI で低酸素性虚血性脳症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分：診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 2 名、小児科医 1 名

看護スタッフ：助産師 4 名、看護師 1 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、入院前の妊娠 37 週 3 日以降妊娠 39 週 5 日の受診までの間に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経系障害または分娩直前の低酸素・酸血症、あるいはその両方によって、低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価（2020 年 4 月改定の表現を使用）

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 妊娠 39 週 5 日、妊産婦からの電話連絡への対応（胎動が乏しいという訴えに対し来院を指示）および来院時の対応（分娩監視装置装着、超音波断層法、胎児機能不全のため入院としたこと）は、いずれも一般的である。

(2) 妊娠 39 週 5 日 16 時 22 分の看護スタッフの胎児心拍数波形判読（胎児心拍数基線 150 拍/分台から 3 分かけて 80 拍/分台に下降）と対応（超音波断層法、酸素投与、体位変換、スタッフ招集、医師報告）は、いずれも一般的である。

- (3) 看護スタッフから報告を受けた際の医師の対応(胎児心拍異常の適応で帝王切開決定)は一般的である。
- (4) 帝王切開決定から 17 分後に児を娩出したことは適確である。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管、アドレナリン注射液投与)は一般的である。
- (2) 重症新生児仮死のため、高次医療機関 NICU に搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

胎児期に中枢神経系障害を発症した可能性がある事例について集積し、原因や発症機序について、研究を推進することが望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

胎児期の中枢神経系障害発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。